

幼児の言語発達に関する研究

一Ⅲ. 言語発達遅滞児の発達経過についての一事例一

研究第5部 丸 尾 あき子

I 目 的

一般に言語発達の遅れの原因として、知能遅滞・脳障害・聴力障害・発音器官の障害・自閉傾向や情緒的な問題・家庭環境や扱いなどがあげられている。言語発達遅滞児の多くは人との接触をいやがり、周りの人のことばをきく態度も少ない。本事例はことばの数少なく語り話せないという主訴によって来所したケースである。母親

は父親の仕事の手伝いに出ることが多く、その間本児は祖母に預けられ両親共に仕事中心で接触の機会に乏しいという環境的な問題や扱いの面から、本児が“聞く”という態度に乏しく、発語する意欲に欠けていると考えられ、本児に対して継続的に観察指導を行ない、言語の発達状況を捉えることにした。

II 方 法

- 1) 知能テストを施行して発達程度を知り母親に面接を行ない日常生活について現在の状況の報告をうける。
- 2) 指導6ヵ月後再び知能テスト・構音テストを行って経過をみる。
- 3) 週一回1時間の個人指導を行う。その間母親との面接も必要に応じて行う。
- 4) 入室して自由遊びが盛んになり15分経過後テープレコーダーによる録音を開始して45分間収録し最初の15分間を文字化する。そうして語彙・構文の発達状況や自発的な言語の内容・量、働きかけに対する内容・量など

について分析を行う。(これは分析中)

- 5) 現在理解出来る表出言語を記録して母親に持参させる。それによると身辺、食物の名称が主で20語程度であった。それらのことばを土台にして話しかけのことばとして活用したり、自由遊びの中で興味をもった玩具を対象に交流を求めるなど努力して、名称・状態の説明などを繰り返し刺激語として使用する。そうして指導過程の中で、態度・表情・興味・遊び・ことば・社会性などがどのように変化し、獲得された言語が適確に使用されるかどうかなどについて結果を考察する。

III 生 育 歴

本児：昭和43年11月24日生 初回来所時年齢2歳3ヵ月 女

出生状態：父が31歳母が24歳のとき第一子として出生。母妊娠中は健康で異常なし。予定日より9日遅れた。吸引分娩。出生時体重3,600g。

発育状態：首のすわり4ヵ月。おすわり9ヵ月。ひとり歩き1歳3ヵ月。

既往症：1歳7ヵ月の時、仮性ジフテリアで一週間入院、呼吸困難になったことがある。先天性股関節脱臼。斜頸。

家族：実父34歳、6人の同胞中第2子、大学卒、開業

歯科医師。実母27歳、4人の同胞中第4子、短大卒、父の仕事を手伝う。近くに祖父祖母(母方)が住んでいる。

言語の発達状態：聴力異常なし。ことばのいいはじめ1歳7ヵ月。その後余り進歩がない。来所当時の表出出来る単語は20語程度であった。絵本をみせて「わんわんどれ？」などきくと指す。自分から絵を指して言わせようとするので言語に対する興味はあるが自発的な発語はほとんどない。たまに模倣する。何か欲しがったり、やってもらいたい時は手を引っぱってアーアーと発声して動作で要求する。母親のいうことは大体理解する。動作のまねはよくする。

その他：〔音楽〕歌や音楽には興味があるがテレビは父親が嫌うので全然みせてない。そのためにレコードは聞かせる。パッパなどの曲は一日中かけているので音楽に合わせて体を動かして喜んでいる。歌ってやる事はない。まだ歌えない。〔遊び〕母親は父親の仕事の手伝

いで外出するので本児を近くの祖母に預けることが多く本などみてひとりあそびをしている。友達はいない。〔排泄〕おべんじょをいやがり、してからシッコと教える。左利き。

IV 指導

1) 場面にならす

最初は興味をもった自由遊びを通して母親との分離不安を除くことに努力するため意図的に言語の働きかけを多くする。このことは自発的発語の機会を失わせるかも知れないと働きかけを少くしてみたが、本児には働きかけの少ないことが反って母親について離れなかったりしゃべらなかつたりして不安をもたらし様子がみられたので、話しかけの必要性を認め再びよく話しかけ、次第に自然にとけこめるようにした。

2) 新しいことばを獲得させる

興味をもったものを中心に、繰り返し刺戟語として使用したり、Tや本児の動作をゆっくりと言語化して聞か

せるなどして、新しいことばに対して聞く態度を養い、語彙を豊富にする。

3) 訂正模倣

発語や模倣しようとする態度を促進し、不明瞭な発語や反射的な模倣語に対しては不完全なことばを訂正して聞かせ、学習させる。

4) 拡充発展

意図的に正しい文でゆっくり話しかけたり質問したりするように心掛け、自発語が盛んになると受身にまわり、働きかけに対しては拡充されるような応答をして、自然に会話が展開するようにもっていく。

V 経過の概要

1. 指導経過

昭和46年2月16日指導を開始して47年3月28日まで34回行い Closeした。地下の言語治療室で毎週火曜日一回来所し午後1時から2時までの一時間指導を行い遊びの中で話される言語をテープレコーダーにより毎回收録した。

<場面にならす>第1回～第8回 2;3—15～2;5—17
第1回 2;3—15

時間になり部屋のドアをあけると Therapy 室の前に立っている。Tと手をつないですぐ入室する。母親が後からついて同室しドアの近くに腰掛ける。あれこれ玩具をいじる。母親の方をむいて「ママ」と呼びかけレゴをみせる。Tがレゴをとって「はいどぞ」と差し出すと受け取る。Tがレゴをはめながら「レゴでしょう」「これはブーブ」「ここにはめるのね」など話しかける。本児が積むと「一杯おうちが並びましたね」「おにかいね、おにかい」と繰り返す。レゴをいじるボタンを押して歯車の動きをみている。お金をTによこす「有難う10円」「10円をどぞ」「10円だったでしょう」と繰り返す。レゴの穴をさして「Kちゃんここに穴があるでしょう。トーンって入っていくわよ」といってお金を穴に

入れてみせ「あー入った」というと「ハイック」と模倣していいTのまねをしてお金を何度も穴に入れる。次ぎはホームをいじる「なにそれ？」と聞くと黙っていじっている「ホームでしょう」いってやる。列車を持って自発的に「デンシャ」という。「あー電車ね」と答えてやると「デンシャ」「シュッポッポ」とつぶやいていじっている。Tが列車を床に走らせ鉄橋を作り列車をのせると床に列車を走らせて眺めている。レールをつなげてやり、汽車をのせて走らせ「あら高くなった」というと「タカク」とまねていい、走るのをみて喜んで笑う。ハサミを左手にもって切符を切ろうとする「ちょきちょきするの」「ちょきちょきして、なかなか切れないわね」というとかすかに「ウン」と応答する。電話をもつ、Tも一方の電話をとって話しかけると受話器を耳にあてているTがベルを繰り返し押してならし「パパですよ」と何度も話しかけるがまねてベルを押し続けている。

このような状態でまとめてみると、〔態度〕母親と同室し表情も固く度々不安になって母親をみる。〔あそび〕玩具に対して興味はあるが、ちょっといじってすぐ他に移って長続きしない。〔ことば〕Tのことばは理解しているようだが黙って玩具をいじっている場面が多いため模倣することばも反響語であって意欲的な模倣ではな

い。時々発する自然語も抑揚がなく独語で伝達の意図は少ない。〔社会性〕Tの要求に対して黙って行動する。またTの動作の模倣は僅かにみられるが玩具を媒介として物のやり取りの交渉がやっと成立する程度である。〔Tの応じ方〕遊び始めた玩具を渡して接触に努めたり興味のあるものに対しては繰り返し発語して刺激する。玩具を黙っていじっている時は動作を言語化するなど心掛け、場にならすために言語の働きかけを多くした。

第4回～第8回 2;4-12～2;5-17

〔態度〕母親が挨拶をするときまねておじぎをしたりTをみるとすぐとんできて持参した人形をみせたりする。ドアをあけると喜んで一人がかけて入室するので母親から離す。10分位経過すると母親の所にいきたがる。このような状態が日によっては4回もみられる時もあった。〔あそび〕すぐ玩具にいくが、あれこれと移り黙っていじっている。〔ことば〕小さい声で早口に話し不明瞭、Tが聞き返すと拒否的態度をとる。自発的に質問や要求がみえ出す。〔社会性〕イヤ、ダメという拒否的態度やイイノなど自己主張が目立ち自己中心的である。〔Tの応じ方〕部屋・玩具・Tにも馴れたために母親から離すことと言語的な働きかけを少くして自発語を待って応ずるようにすると母親が同室しないためか、働きかけの少ないことを察してか、一人で喜んで入室しても分離不安が残り玩具で誘うと遊びにのるが黙っていじっている事が多いので、自発語を待って働きかけることはこの段階では無理と思い、ごく自然に接するようにした。

<指導に入る>第9回～第34回

第9回 2;5-24

時間になり降りるとまだ来ていないので部屋に入って待っていると駆けて入室してくる。ドアを開めようとするといやがって出て母親を呼ぶ。母親がドアの所まで来て一人で遊ぶようにいうと、顔をふくらませてしぶしぶ入る。Tがドアを開めようとするといやがるのでドアを少しあけておき、そこに「ママのおいす」といって椅子をおいた。ママ人形を指して要求するので棚から取ってやる。人形をもって箱の蓋の絵を指して「これと同じでしょう」「これと同じ」と繰り返すと、みて「オンナジ」と模倣する。ピストルを持って「オンナジ、オンナジ、オンナジ」と調子をつけて繰り返す「ピストル同じね、これ同じね」といってやる。戸棚の前について「コレモッテ」と折紙の入っている箱を要求する。「こんどは折紙を持ってきてなの、はい置きましたよ」と取って机の上に置いてやると色テープを出す「なーにこれ」「テープ」「何作りましょうか」「テープね」というと「コッチテープ」と色紙をよこして「ツクッテ」と要求する。

「作って何を作りましょうか」と聞くと「ドーブチュ」と答える「動物ねKちゃん何がいいの」「ウチャギ」「ツウッテ」と要求するのでTが色鉛筆を取ってうさぎを色紙に描きながら、「うさぎはお耳が長いでしょう」「お耳」などいって顔を描くと「アンヨ、アンヨ、アンヨ」という「あんよまで描くの」「あんよどーなってる」と聞くと自分の足をもって「アンヨコレアンヨ」という。「それはKちゃんのあんよね、Kちゃんのあんようさぎさんの……」という答えで「ドータンカイテ、ドータン」と次の要求を出す。「象さん今度かくの象さんも」といいながら描きかけのうさぎをかき「うさぎさん出来ましたよ、これおめめよこれは」と鼻をさして聞くと、見るが「コレハアノネー」といって線をかいている。そうして又「ブーブ」「チューリップ」と要求する。「チューリップのお花、はい何の色にしようかしら」と箱の中の色紙を出すときみている。「こんなに色紙きれいなのが一杯ありますね、チューリップのお花どの色にしましょうか」と聞くと「キーロ」と答える。「黄色ね」といって黄色の色紙をみつけながら「小さいお花大きいお花」というと「オーキイノガアッタ」という「うん大きいお花なの、はっぱもつけて」といって茎をかき葉をかくと「ココ、キッテ、コッチ、ダメ、チュメタイノ、ココチュメタイ」という「ここ冷たいのどーして」と聞くと「オミジュデ」「あーそお、お水入れるのね、そーね」「じやお水を入れるようにここをちょっととっておきましょうね」というと「ウン」とうなずく。Tが描いて「はいどーぞ、チューリップのお花」と渡すと受取る。次ぎはベタックをみつけ、丸い形がつながっているのをみて「チュキ」という。「あーお月さま月なの、お月様まんじやったのね」といって手をもって取る方法を教えてやる。「ほらとれますよ、とれたでしょう」「そお、お上手お上手」と励ましてやると、自分で剥がして色紙にはる。「こんどは四角をつけましょうか、四角ね」といって四角の形をとると、次ぎは自分で剥がしてはる。「ナイ、ナイ」といってセロテープを要求「これセロテープでつけるの、黄色いテープね」といってはじを引っぱって持たせ「ハサミで切っていいですか」「はい切りました」「はいここについた」と机にはる。

このような状態で〔態度〕遊びが楽しみで、喜んでかけて入室しても、母親との分離不安が少し残っている。ドアを少しあけて母親の椅子を置いて位置づけたり、遊びに誘ったりして気分の転換をはかると少しずつおちつき母親より離れて遊びにのり表情も出て笑顔をみせるようになった。〔あそび〕あれこれと余り移らず折紙を中心に描いたりはったりなど遊びの発展がみられ長

く遊ぶ少し落ち着きがみられた。〔ことば〕発声がしつかりしてきて、不明瞭で聞きとれない場合が少なくなりTとの会話が出来始めた。Tが繰り返し刺戟すると模倣する態度もみえ出した。お花に水をやるなどの日常生活の経験の伝達も出来るようになった。〔社会性〕素直に応じ要求が多くなり言語と行動で表現する。〔Tの応じ方〕語彙を豊富にしようと新しいことばを聞せるように心掛け発語を繰り返し刺戟する一方本児のことばを受けとめて状態の説明・動作の言語化を行う。

第10回～第14回 2; 6—1～2; 6—28

〔態度〕先にかけていって自分でドアをあけて入る。ドアを閉めても、オカアサンということばが出て、足に積木が倒れて泣きそうになっても、買物ごっこでドアの所にかけていっても、母親を気にしなくなり遊びののっていくのでTの不安もなくなる。祖母と来所しても問題なく遊びに入っていく。母親も離れるようになって祖母に預けても不安を感じなくなった事が大きな成長だと喜んでいる。ママゴトのみかんを口に入れてTをみるので驚かせてみせると笑顔でとび廻って喜びを動作や表情で現わすなど表情が豊かになり、おどろいてみせたりおどけてみせたり擬声を出したりして体全体で驚きや喜びを表現し、伝達方法が細くなる。又声を大きくして要求したり伝えたりして楽しそうである。〔あそび〕動きが活発になり、飛んだりかけたりして元気よく遊ぶ。興味のある玩具がきめられ、電話、ママゴト、買物ごっこなど日常生活の模倣がみられ、集中して遊べるようになる。〔ことば〕自発的な発語が多くなる。大きな声で早口に自己主張、要求を出し奇声をあげるなど発声にも感情が出てきた。使用する品詞（動詞・助詞）や語彙も豊富になる。擬声擬音の種類も多くなり、使用回数も多くなり動作に合わせて発声したりして楽しむ。会話が可能になり、質問説明要求が多い。模倣も目立ち動作しながら小さい声で繰り返し独語している。発語は明瞭になってきたが、早口だったり不明瞭な場合Tがきき返すとゆっくりいい直したり、又自発的にいい直して訂正して伝えようとするなど、学習意欲・発表・伝達意欲がさかになる。〔Tの応じ方〕二語文で正しくゆっくり質問したり、応答したりして耳を傾ける態勢を養うようにした。

第15回 2; 7—5

部屋に入って待っていると少し遅れて来所する母親がドアの所まで送ってきて、迎えには祖母がくるからといって帰る。元気よく入室し、机の上ののっていた絵カードにいてみる蛍の絵をみて「デンキ」と自発的にいう「これは蛍電気みたいね」といって次の絵をみせる。「これは」と質問すると「リンゴ・ライオン・ボール」な

ど答えていく「これは何でしょう」「おにいちゃん」「お兄ちゃん何のってるの」「デンジャニノッテル」「そお、自転車ね自転車」と繰り返しやる。「これは」「ケーキ」「おいしいわね」「これは」「ミカン」「柿」と訂正すると、カキと小さい声で模倣するが「ミカングヨ」と主張する。「これは」「ライオン」「何しているのライオンは」「大きなお口あけて何っていかしら」「ワラッテ」「うおーってうでしよう」「ワラッテルノ、ワラッテルノ」「笑ってるの、あーそうね」次のカードをみて「オタウタン」「そお猿さん」「チリンチリン」「そうチリンチリンって鈴ね」というと「スズネ」とまねるので「そおすず」といってやる。「コレハハナ」「そお朝顔っていうお花よ朝咲くのね」と聞かせる。鬼の面をみて「コレハ」「コワイノ」「こわいの鬼なのね鬼です」「シュッポー」「しゅっぱね出ているこれは何でしょう」「クモ」「けむり」とゆっくり訂正するとケムリとつぶやく。立って横の机にいく「こんどはそっちするのね、じゃ又みたくなったらみましようね、ここに置いておきますよ」と机の横にカードをまとめておく。電話にいて受話器をもつ「お電話してくるの誰れに」「ウーママ」「じゃKちゃんかけて下さい」電話に入っていたお金が落ちたのでTが拾って「はい拾いました」と渡すと「10エン」といって入れて出口をみる。「出てきたでしょう」というと「ウン」と答える。又10円入れながら「アーイレタ」という「何が出ました」「ウー10エン」「10円が出ました」又入れて出口をみて「デナイ」「デテキタ」「オチチャッタ」などいっている。ダイヤルを廻して「グルグルコレマワッテル」というので「ぐるぐる廻っていますねダイヤル」と語を強めていうと「ダイヤルコレ」とまねる「じゃ今度Kちゃんどこへお電話しよう」「12345もしもしYちゃんいる」というと「モモジャー」とリズムカルに繰り返していってTをからかう「誰ですかもしもし」と繰り返してもいいつづけTの所にかけてくる「あーかけてきた」というと、又机にいて Regi を持ってきて押して歯車のまわるのをみる「ほらとまった」「廻っているわね」などいってやる。止まると「ダメココ」というので、ねじをまいてやると、自分でもまねて操作する「ハンナイネヨイショ」などいって。受話器をもってチューリップの歌をうたう「チューリップガ、チューリップガ」「花が」とTが添えると「チューリップガハナガ」「並んだ並んだ」と「チガウ、チガウ」といってピョンピョン両足とびをする。「ピョンピョンピョンこんどうさぎの歌」「お上手ね片っぱの足は」というと片足跳びをする「ピョンピョンってうさぎみたいね」というと人形を抱いてとぶ「ダーテアカチャンピョンピョンネ」「赤ちゃ

んがピョンピョン一緒にじゃお手手つないであげて頂だい」暫く飛んでいたが「ネンネ」というので「ねむってるの」「どこでねんねさせましょうか」とのぞくと「ママ、ベットベット、ベットガイイ、ベット」と要求する「はいベットですねちょっと待って下さいベット作ってきましょう」「はいどぞここベットにして下さい」と箱を出すと「ココ」と人形を寝かせる「ねんねしなさいってね、おやすみよ」というと「クチュヌイデ」と人形の靴をぬがす「お靴をぬいで、ベットに入る時はお靴ぬぎましょうね」ときかす「マクラハ」と取りにいく「ありましたか」と聞くと「ナイ」といって探している。

〔態度〕元氣よく入室する。ユーモアが出てきて釣り糸をわざと振り廻してTに当ててからかったり、TがRegiや電話を持とうとするとダメと拒否して自己主張をしたり、イコーネと度々発語して同意を求めたりする。〔あそび〕安定してきたため、好きな玩具もきまり、前回の遊びの再現がみられ、玩具の扱い方も細かく器用になる。運動面の動きも活発になり、うさぎのまねをして両足跳びをくり返したり、魚釣りの糸を振り廻したりボール投げをして遊ぶ。左利きであるが鉛筆でなくぐ書きをしたり、ハサミでじくざくに切ったり、お箸でおはじきをはさもうとしたりする。〔ことば〕聞く態度が養われ発語意欲さかんで、発語を楽しむようになる。歌も不明瞭だがうたうようになり、踊ったり歌ったりしてよくしゃべる。不明瞭で聞き返すと同じことばを繰り返してからかう状態もみられ余裕が出てきた。模倣に変化がみられる。すぐまねて発語する時と、少し経ってから小さい声で独語する時と、黙っている場合などいろいろの形がみられる。〔Tの応じ方〕アノネという話しかけに対して、ゆったりと発語を待って聞いてやる。間違っていると訂正して繰返し刺戟して強化する。言語化に努めながら拡充質問をしたり、補充したりして発語をうながす。

第18回 2; 8—23

〔態度〕二週間の夏休みが続き、久しぶりに来所する。Tをみるとすぐ飛んでくる。母親と話している間も待ちきれずに、先にかけていっては立止り、振り返っては又走って部屋に入る。〔あそび〕玩具をいじっていてもキョロキョロとあたりをみて、すぐ他の玩具へいくというようにすぐ移る。玩具のあり場所を確かめたり、好きな玩具を記憶していて要求したりなど、興奮状態で落ついて取り組まない。〔ことば〕非常によくしゃべり、Kチャンハオミズノムなどの三文節が多くなる。長い文も模倣する。コレハナニ、コレハなど質問したり、オカシイワネ、〜シヨウ、〜ヤロウ、〜ヤッテなど同意を求め

たり誘いかけたりする要求語が多い。説明すると黙って聞いている。〔社会性〕バカといってTを叩いたりふざけたり、一緒に大きな声で笑ったり表情を作って声を変えたりなど表出が豊かになり、言語で情緒の伝達が可能になる。〔Tの応じ方〕興奮してしゃべるので、受動的な態度をとり拡充を求める応答に心がけ、Tの動作や説明などゆっくり発語して聞かせる。

第19回～第20回 2; 9—0～2; 9—10

〔態度〕地下に降りていくと、来所している男の子と一緒に下アールのあいている部屋に入って遊んでいる。誘うといやがる再び誘うと出るが母親の所について顔をふくらませてTをみる。ウルトラセブンを渡すとかかえ込んで、Tと手をつないで入室する。〔あそび〕怪じゅう、電話、組み板、ペタック、ママゴト……という工合に長つづきせず次ぎ次ぎ移り遊びの発展はみられず着かない。ボールを転がしてやっても立ってみているといった態度で消極的である。35分経過するとオワリといって帰ろうとする。誘うともどるがその後も帰ろうとする。〔ことば〕自発語が少なく簡単な二語文程度で調子が悪く活発でない。新しいものに対しての興味、質問は多いが問を無視してコレヤルノ、ダメなど自己主張が目立つ。要求、命令は大きな声で語声を強く発して感情表出が多い。又不明瞭なことばや独語も多い。〔社会性〕遊んでいてもすぐ顔をふくらませてにらんでおこりバカ、バカという。いつもこういった表情をみせてもすぐ笑顔にもどり、声を立てて笑うのに本気に怒っている。〔Tの応じ方〕分離不安をみせたり反抗したりするのは母親が月始め、月末に父親の仕事の手伝いにいく機会が多く、預けられるために原因しているようで、動作感情の言語化に努め、時間までやっとなげさせる。

第22回～第24回 2; 10—4～2; 10—18

〔態度〕Tをみると先にかけていってココと部屋を指す。時間がきても帰りがたがらない。大きな声でアソンドイクノ、ダメなどいって顔をふくらませてにらんで拒否する。又オコウチャノム、テレビミルなどいってごきげんをとったり、持参したおもちゃを置いていって、アジタモッテイクなどという。〔あそび〕前回の遊びの続きが再び行われる。ママゴト遊びによって自然に発展される。持参したドライバーを廻して自分の頭にやり、Tにもやってくれたり、椅子に坐っているように命令したりTが本をよんでと要求すると、ごちそうを作っているのにすぐ話しかける、又一人で見ているように命令する、お湯をこぼすとタオルをもってきてふいてくれる、口元も拭いてくれるという工合に、日常生活や両親の動作、ことば、表情、語調などの模倣で完全に母親の役割

をとって遊びが発展される、視覚、聴覚もよく新しい玩具をすぐみつける、無くなっているものにすぐ気づく、ねじなどみつけると入っていた個所がすぐ分かる、飛行機の音がすると遊んでいた話していてもやめて教えるなどである。〔ことば〕幼児語は多いが元気にはしゃいで大きな声でよくしゃべり、身近かに経験するものに対しての語彙がふえ、質問も多くなる。喜びをことば、表情、体で表わし奇声をあげて会話のやりとりをし、ふざけてパンパンとリズムカルにいたり、アツイナを繰り返して行って反応をみたりして、ことばの使用の楽しさといったものが感じられる。両親の口まね（オテテハダメ、ウルサイヨ、マッテナサイなど）が多く、表情も加わり動作（手を腰にやって歩く、新聞をみて待つなど）に現わすなど感情表現も細くなる。新しいことばは繰り返し学習し、暫くして会話の中に入れて完全に使用する。再び不明瞭なことばが多くなり、聞き返すと繰り返して発語し伝えようと努力する。数にも興味が出てきてサンマイ、イチニなどいたり行動を言語化してTに聞せたりする。〔社会性〕表情豊かで気に入らなかつたり、我を通したい時は母親のまねをして、語調を強めて命令調にいい、おこった様子をみせる。位置の交換は出来るが、母親の役割をとりたがる。〔Tの応じ方〕会話のため倒置したり、省略したりする表現が多いがゆっくりと正しい発音と文で説明するように心がける。ワタシといえたので対象語としてボクということばを意識して使用するなど、新しいことばを強化する一方「なにしているの、これってなに」という工合に説明・叙述をさせるようにしむけた。

第25回～第27回 2; 11—8～3; 0—13

〔態度〕母親の都合で暫く休んだり、風邪を引いて続けて休んだりして久しぶりに来所する。母親の横に腰掛けて待っていて持参した本をもって先に立って歩くが部屋の前で立ってTを待つ。〔あそび〕新しい人形、鉄橋があるとすぐみつかる。次ぎ次ぎ移っていたが気に入った玩具では長く遊ぶ。少し足がもたつくが人形を乳母車にのせて押して歩き笑って楽しむ。〔ことば〕暫く休んでも発語に影響はなく、母親の口まね（ヤクソクシマシヨウ、ケンカシチャダメヨ、テレビバックリミテダメデスヨ）や行動（お料理作り、手を洗う）の模倣は前回につづいて多い。よく発語し楽しむ。後半切れ目がない程よくしゃべる。理解しないこと、何度もいい直して伝えようとするなど発語・伝達意欲が盛んである。質問も多くコレナニと聞くので、なんだったと反問すると、考えて答えるようになる。表現方法も訂正して答えたりして、正しく伝達できるようになる。〔Tの応じ方〕発語

意欲盛んなので待って応答する態度をとる。早合点して間違えた時は訂正してやる。

第29回～31回 3; 2—1～3; 2—21

〔態度〕暫らく休みが続く（母親の用事や風邪のため）来所する。祖母と腰掛けているが、Tをみるとすぐとび降りてきて先に立って歩く。録音を催促して自分で入れる。〔あそび〕ごっこ遊びが中心になり長く遊ぶ。ボール投げやウルトラマンをもって部屋を駆けるなど、体をよく動かし活発。相手の立場を認める余裕や譲歩（カード遊びでアッオバチャンカットと勝をゆずる）がみられたり、ビニールテープがすべて切れないので切つてやると、（オジョウズネKチャンデキナイ）Tをほめたりする。ハサミの使用が上手になり、切符を上手にきる。〔ことば〕体の調子が悪いためか、文節の複雑さはみられないが、よく自発的にしゃべりよく応答する。チガウという表現からソウジャナイという否定の形になったり、コノオジサン、アノカメンライダーなど代名詞の使用から連体詞に進歩がみられる。昨日何か降ったでしょうと聞くと、ユキヤコンコンとうたってくれる。新しいことばは黙って聞いていたり、もう一度いってと要求するようになる。〔Tの応じ方〕聞きとれない個所が多くなったのでウンと聞き返す。代名詞で答えるとアレって何と聞いて説明させるようにする。

第32回 3; 2—28

降りると椅子から立って待っている。着てきた洋服を両手でひろげてみせる。先に立って走って部屋に入る。水道をひねるが水が出ないのでふくれてTをみる。自分で録音を入れる。「だれが入れたの」「Kチャン」「そおどうも有難とう」というとマイクを口に持って行って「コレイイ」といってTによこす。「アノネママノオハナシ」「ママとKちゃんが今日きたんでしょう」「ウン」「どこへきたの」「アノネKチャンネ」「うん」「Kチャンガネ」「うん」「トーカイマンションキタノ」「うん」「トーカイマンション」「東海マンションからきたのね、何に乗ってきたの今日は」「クーマ」「イママッテマッテママガ、カエロカ」「そうママ待ってますね」というと「ボーン、コレスル」と電話をもつ「そお電話するのは」と電話をやると受話器を耳に当てて、「ダメダヨ」という「お金を入れた」と聞くと「イッパナイヨ」「入れて下さい」というとお金の出口をみて「アレコンナカハイッテル」という。「いくら入れるんだったKちゃん」「40エン」「10円でいいわよ」というと赤いお金を持って「コレ」と聞く「そお10円1つ入れれば聞えますよはい入れて」というとお金を入れる。「そおそれから受話器を持ってダイヤルまわして出た？」と聞くと「オバチャ

ン」と呼ぶ「なーに」というと「ソージャナイコレヤルノ」とマイクをよこすが、そのまま受話器をもって「もしもしKちゃん」「ウン」「何しているのお電話しているの」「ソージャナクッテネ」「うん」「オダイドコヤッテンノ」「あーれそうなの今からお料理作るんでしょう」「ウン」「何が出来るかな今日は」「ハンパークデキル」「わあうれしいハンパーク大好きよ」「ウン」「Kちゃんのうちはだれがハンパーク好きだった」「Kちゃん」「じゃお父さんは何が好き」「アノネオトウサンハギューニク」「ああ牛肉、じゃお母さんは何が好き」と聞くが答えなくて受話器をもって「Kチャンデンワスルカラ」「イマオシエテアゲルカラ」といってダイヤルを廻らす「それはお札のお金100円」というと「チガウ100エンデス」といって粘土をいじる「何みつけているの」「オーキナユビワ100エンデス」といってリングを持ってきてTの指にはめてくれる「どーも有難とう中指にはめて下さったのこれ何色だった」「キーロデス」「そうです大きすぎちゃうわ」とはめてくれたリングを動かしてみせる「ホラコノホウガ大キイデショ」と別のリングをみせる。

〔態度〕前回水を出して楽しんだので、水が出なくてむくれてTをみる。水が出ない説明をして他の遊びに誘う。活発によく動き廻り時間がきても帰ろうとしない。母親がこの所つわりで外へ出さないでエネルギーがまっている。今日の来所の事をいうと喜んで食事をしたという。紅茶を飲むまねをして大きい声で奇声をあげて笑って喜ぶ事を繰返しTの反応をみたりする。余り大きな声でしゃべるので待っている母親は心配したほどだった。録音も自発的に入れて時間がきても帰ろうとせず顔をふくらませて拒否する。〔あそび〕電話・ママゴト・買物ごっこごっこ遊びを楽しみ、主導権を握って遊びが展開される。〔ことば〕置換されたり脱落があったり、不明瞭だったりすることが多いが、大きい声でよく発語し長文（ホラコレノホウガ大キイデショ。アッチノミギツカワニアリマスオミセ。オミセガネヤスンデマス。ヤサイトグレープジュースモウツテマス。ココニイマアリマスヨ。イマオチュカイイッテクルカラオルスバンシテイテヨ）になり説明（ソージャナクッテネとかKチャンデンワスルカラ。イマオシエテアゲルカラ。イマイレルカラなど格、接続助詞のカラの使用が目立つ）もされて拡充されている。模倣も目立ちすぐ会話に使用する。〔Tの応じ方〕右側ということばを使用したので直ちに左側・右側というように会話に入れたり、何してるのと質問したり、……だと思ふなどと反問し誘導して説明を細かくさせようとした。

第34回 3;4-4

〔態度〕エレベーターのドアがあくとかけてくる。持参した黒いクマのぬいぐるみを持っていて母親と話していると「サーイコウ」と催促する。先に立って入室。生き生きとして遊んでいたが次第にあれこれといじり一つの事に集中しなくなり、何とはなしに手にするといった工合に変わり、覇気に乏しくなる。帰りの子どもの声があるとパット止めて帰ろうとする今日が来所の最後という影響のためと思う。〔あそび〕40分位水を出してママゴト道具を洗う。粘土をぬらすなどして遊ぶ。他に誘うとダメアラッテルカラヤッテナサイと命令する。トンカチ積木を右手左手と叩く。野球でTに打たせて一テンなど奇声をあげて手を叩いて喜ぶ。〔ことば〕早口ではしゃいでよくしゃべる。複文でよく説明出来て会話が成立し、構造上も複雑な表現になる。

2 テスト結果

ⅰ 知能テスト結果

第1回 昭和46年2月23日施行。乳幼児検査, C.A. 2;2-29 M.A. 1;8-8 D.Q.75 態度:一人で入室するが途中から不安になり母親同室する。絶えず歩き廻り、周りのものをいじり動きがはげしい。玩具は次ぎ次ぎ移り、自己中心的で要求拒否が多く指示に従わない。ことば:絵本が好きでじっと眺めているので聞くと不明瞭に答える。行動・言語共によく模倣する。要求は手を持ってウーウー発声して示す。このテストは指導に入る前に施行したもので発語意欲はみられるが要求拒否が多い。

第2回 昭和46年9月20日施行。乳幼児検査, C.A. 2;10 M.A.3;0 D.Q.106 態度:一人で入室始め緊張していたが、馴れるに従いふざけるようになり落着かず動き廻る。理解困難だったり気に入らないと黙っている。時々Tの顔色をうかがい反応をみる。ほめると喜びをすぐ感情に現わす。ことば:質問に対して答える事が少なくやと小さい声で一音発する程度で模倣も少なく一部分である。後半大きい声で答えるがムラが目立つ。このテストは指導6カ月後行つたもので、一人で入室した事は進歩であったが、態度、応じ方、発語状態などアンバランスが目立ち自己中心的とは違った情緒の不安定さがみられた。

第3回 昭和47年3月21日施行。鈴木ビネーテスト C.A.3;4 M.A.3;8 I.Q.110 態度:自己中心的で勝手な行動をとりたがり気が散る。難かしいと拒否してやらせようとし、強ういうと怒って泣き声を出して床に坐り込む。ことば:早口でその上不明瞭で理解困難だが明瞭な場合も時にはある。これはClose一週間前に

行ったものである。

以上を眺めてみると知能の発達に順調な経過を辿っているが、情緒の面での不安定が尾を引いている。これは年齢的な要素もあるが、母親の扱い、生活の反映、祖母に預けられる不安などが原因していると考えられる。

b 構音検査結果

第1回 昭和46年9月14日施行 2;9-20

田口恒夫氏の構音検査。態度：よく反応して発話意欲盛んである。発音の困難なものでも発語しようとする。不安だと知っているものの名称をいってTの顔をうかがう。幼児語の使用が目立ち訂正するとすぐ模倣して、そこから生活の話題をひろげていく。結果：指導に入り7カ月経過、第21回目に行く（6カ月後に行く予定だったが、夏休みが続いて調子が悪かったため1カ月遅らせた）。タ行、カ行の無声音の方にやや遅れがみられる程度である。

第2回 昭和47年3月7日施行 3;3-13 態度：絵をみるとすぐ説明するなど、自由に発語して楽しむ様子がみられる。分らないと暫らく考えていて答えたり、不明瞭に答えると繰り返し発語して理解させようとする。犬の事をワンワンというので訂正すると、我を張って大きな声でワンワンという一方、すぐ模倣して訂正する場合もある。結果：Close を前にして行ったもので、前回に比し語彙が非常に豊富になっている。サ行がシャ行、ザ行がジャ行、ツがチュになっているが、年齢的に問題はなく構音発達は順調といえる。

3 面接経過

第1回 昭和46年2月23日 2;3 テスト施行の結果、面接するとことばの発達が遅くて心配だから、是非指導してほしい。この頃イヤということばを覚えて盛んに使う、叱ると隅っこにいて泣くので、扱いに迷ってしまうという。母親に対して、興味を示す遊びを中心によく話しかけ相手をする、絵本に興味が出ているので、豊富に話しかけてやるように、反抗は年齢的なものであるから、方向を変えてあげるようになど、家庭における扱いを指導し、一週間に一回地下室で Play を行う事を決定する。本児の印象として、母親にくっついていて社会性に乏しく、消極的であり小柄でやせて顔も青白く、神経質そうな感じを受けた。

第2回 昭和46年9月21日 2;10 指導を開始して6カ月後、再び知能テストを施行して面接する。テスト結果について安心して喜ぶ。そうして家庭での状況を述べる。

変化：①来所することが楽しみで、行くことを話すと

何でもいうことをきく。②最近母親が負かされる程口が達者になった。③いろんなことが我慢出来るようになり、聞き分けがよくなった。④一つの遊びでかなり長い間楽しむようになった。⑤近所に友達がなくなると、近づいて行って手を引っぱったりする。

心配：①絵が好きでなく描こうとしない、鉛筆の持ち方も不器用である。②馴れないことには手を出さない、安心するまでに時間がかかる。

反省：地方で暮らしていたが東京で開業する事になり、父親より東京が委しいので仕事を助けて走りまわった。全く子どもの方へ頭が向かなく、むしろ子どものいる事が煩わしかった。子どもはミルクを与えて、只眠かせておけばおとなしく親孝行な子だと思っていた。祖母に預ける事も多く、こんな事をしていたいいのかといわれたが、仕方のない事だと思っていた。子どもは嫌いではないが、仕事をしている時は手をかける時間もほしかった。現在おちついて余裕も出来て、考えると、かわいそうな悪い事をしたと反省している。来所していなければ、遅れたままになっていたのではないかとおそろしく思う。よい時期にみて頂いて感謝している。これからは出来るだけ相手になってのびしてやりたい。最近は友達の家へ連れていったり、お使いにつれていったりして、いろんな経験をさせるように努力している。

第3回 昭和46年12月22日 3;1 前回の面接より3カ月後に行う。

変化：①ことばの方はどんどん覚え、心配はなくなった。よくしゃべるので、皆にませているといわれ、いやな感じがする。②この所一日おきに仕事の手伝いに出るので、一緒にいる時はうるさい位まつわりつく。③家庭でも忙しい時は、人形を相手に母のまねをしてしゃべったり、買物のまねをしたりしている。④非常に友達をほしがり、母の友達が子どもをつれてくると、玩具をかしたり、世話をしたりして仲良く遊ぶ。⑤W幼稚園に無事入ったので、時々園へ行って遊ぶが帰るのをいやがり、ひっぱって帰るようである。

心配：①ませているといわれて、子どもらしくなくなってきているのではないかと気になる。考え事をしているとママドウシタノと聞いたり、いつも買ったものですませる事が多く、たまにお料理を作ると、キョウハママガ作ッテクレタノアリガトウなどいったりして敏感だと思う。②相変らず絵は描けず、歌もよく歌えない、童謡は毎日聞かせているが心配だ。③祖母に預けると、いこと一緒にいすごいけんかをして、いつも泣かされるので、祖母と一緒に預かる事をいやがっている。

反省：ついカッカしてどなって叱るので、父親にたしなめられ、なるほどと反省している。

第4回 昭和47年3月28日 3;4 ことばも順調に発達を示し、通園が始まるので Close に当って面接を行う。

変化：①ことばの表現力はかなり豊かになってきた。
②幼稚園にいく事をとても楽しみにしており、毎日バスケットにいろんな物を入れて「幼稚園ニモッテイク」といっている。

心配：①まだ運動面、絵を描くことには自信がないらしく、積極的にやりたがらない。②この頃つわりで工合が悪く、余り外へ出さないで反抗的になっている。暫く入院したので祖母に預けたら、便秘をおこしたり、発熱したりなどの拒否反応をおこしたが、母の所へもどるとすぐ直った。このようにすごく神経質である。③4月より通園が始まるが、余り期待が大きいので心配になる。この頃荒れているし、入園すると疲れるが、来所を楽しみにしているので様子をみたい。

悩み：①最近又仕事の手伝いで外出する事が多く、本児をつれて出る時もあるし祖母に預けていく事もある。月末で、この一週間、特に忙しかったので、反抗的になっている。大人の意志で子どもを引っぱりまわし、かわいそうだと分かっているのに仕事のため、仕方がないと割りきろうとする。研究所へくる時は、驚く程素直にいう事をきく。たまに公園へゆくと喜々として何時間も遊び、その姿をみて子どもの求めていることがよく分かるのに満たしてやれない。忙しい時は公園を避けて通る。
②母親自身、いろんな事で板ばさみになっていると述べ

る。イ) 本当は子どもの事を第一に考えたいと思っている。ロ) しかし仕事は手伝わなければならない。ハ) 仕事を手伝うことは父親の要望で、自分の意志ではないと思う。ニ) しかし考えてみると、仕事をするのは自分にとって家庭生活、父親の神経質、叱言、子どもの世話からの逃避でもある。ホ) しかし実は自分自身外へ出て、家庭以外の仕事をするのがとても好きであり、性格的にも家庭だけにとじこもってられない。③逃避したくなる理由。イ) 父親と本児は非常に神経質、過敏、性格がよく似ている。二人とも細かいことによく気づき気が弱く、自信がなく、なかなか手を出さない。一方母親はガサガサしている、自信のないこともどうにかなると手を出す。それで二人を絶えずおだてたり、勇気づけたりするのに疲れてしまう。ロ) 子どものしつけに関して、両親の意見がかみ合わない。本児が悪いと父は何でも母のせいにする。説明しても分かってもらえない、仕事で疲れて帰ってくると母にあたる。父親の性格を知ってとまどい、その最中に本児が生まれ、又とまどうことになった。ハ) いとことすごいけんかをする。いとこの方が強くいつも泣かされるので、祖母が預かるのはいやだというので不満である。又いとこの母親が本児を、メソメソすると叱るのもいやな気持ちであり、仕事の事で時々預けるので板ばさみを感じる。

以上から考察すると、母親は父親との性格の違い、本児といとこの関係などで悩みながらも、扱いにおいて反省し努力している反面、仕事のためには仕方がないと割り切り、入園という他力的な方法で、心配や世話から逃避しようとする。

VI 予 後

Close して16日後、入園式をすませて来所する。部屋から出るとすでに部屋の前にきていてとびついてくる。喜んで入室、他の子どもがセンロをつなげて遊んだのをみてナニと聞いたり、クレーン車のねじをまわして動かしたりして、懐かしそうにあれこれと眺めていじる。何幼稚園だったと聞くと「Wヨウチエン」と大きい声で答える。母親はW幼稚園は自由でのびのびして楽し

そうであると報告し、問題がおきたら又お願いしますという。マタクルカラネといって母親と手をつないで飛びはねて、前へのめりそうになって帰っていく。

入園3カ月後電話で報告をうける。扱いの面で手こずる位であるが、幼稚園は喜んでいて、集団生活、友人関係、ことばの面においても何ら問題なく、楽しい幼稚園生活を過ごしているという事であった。

VII 考 察

本事例は両親共に仕事をもっているために、接触が少なくことばの発達が遅いという心配で来所したものであり、2;3より3;4まで一年間に及んで指導を行った。

1 発達変化

1) あそび 安定しだすとよく遊びにのり落着きもみられ、興味の方向もきまり集中して好きな遊びがつけられるようになり、運動面も活発になる。

2) ことば 伝達手段としての言語の楽しさが分かり、

理解力もすすみ意欲的な模倣や学習を通して、自発的な意志の表示が多くなり、複文へと発達している。

3) 対人態度 分離不安が成長につれて解消し、自我の発達とともに反抗したり、奇声をあげたりして身ぶり表情など表出が豊かになる。

4) 母親 本児に対する関心、注意の向け方が変化し指導に対して積極的、協力的な態度が出てきた。

5) 本児 情緒の不安定を繰り返しながらも少しずつ落ち着きがみられ、外界に対しての注意力が細くなり、

興味の示し方が豊富になる。音や歌に対しての関心も、芽生え問題解決の様式としての言語のあり方が理解出来た。

事例を扱ったのは初めての経験であるため、扱いや観察に不備な点が多く反省させられている。一年間の指導、全回の文字化など長時間を費した。なおこのケースの指導に当って、野田雅子先生に御協力を頂いた事を感謝する。